

エッセイ Essay



豊橋市国際交流協会 設立25周年に思うこと

公益財団法人豊橋市国際交流協会
副会長 満田 稔

来年の2015年に、第二次世界大戦が終結して70周年を迎えます。世界中の国を巻き込み全世界で戦われた大戦は、6,200万人の戦死者を出し、物的被害は天文学的數字になる歴史上最大規模の戦争でした。

戦争が終わり待ちに待った平和が到来して各国の指導者と国民は、この平和な世界が永久に続くように強く決意して、国際連合を結成しました。各国の指導者および国民は、二度と戦争を起ささない平和な世界の実現を目指し、理想を高く上げかつ燃える様な情熱をもっていました。しかし、平和な世界は実現できませんでした。

第二次世界大戦の終結と同時にイデオロギーの違いから、世界はアメリカを中心とする西側諸国と、ソ連(ロシア)を中心とする東側諸国に二分化され、双方の不信は根強く鋭く対立し、一触即発の状態となったからです。対立は厳しく日本のすぐ隣の朝鮮半島で、西側諸国と東側諸国が戦闘(朝鮮動乱)を始め、第3次世界大戦になりかねない事態となりました。小学生であった私は、豊橋の上空をひっきりなしに飛ぶアメリカ軍の輸送機の爆音を聞いた時に、日本も戦争に巻き込まれるのではないかと、小さな胸が不安で一杯になりました。朝鮮動乱終結後も40年余対立は続きました。私は東西ドイツとポーランドとソ連(ロシア)に旅行して、東西対立を目の当たりにしました。市街地を二分するベルリンの壁は衝撃的でした。

25年前、ソ連(ロシア)のゴルバチョフ大統領のペレストロイカに端を発した改革運動は、瞬く間に東欧諸国に広がりベルリンの壁が崩壊して、不可能と思われていた東西ドイツの統合が実現いたしました。第二次世界大戦後の理想が甦り、世界平和の実現を目指す国際交流の動きは、各国で始まりました。時期を同じくして、我が町豊橋に国際交流協会が誕生し、世界平和の実現にむけての国際交流の力強い一歩が、踏み出されました。

以来4分の1世紀が経過し、東アジアには東西対立は残るとは言え、国と国を超えた世界平和の実現にむけての国際交流の力強い動きが政治の分野、経済の分野、文化の分野、教育の分野等あらゆる分野で進み、グローバリゼーションと称される世界各国の相互依存関係は、想像を出来ない程強くなってきました。この間に海外企業が豊橋に進出し、地元企業が生産拠点を海外に移し、豊橋と世界各地との結びつきはますます強くなりました。教育の世界において、海外交流が盛んになり小学校に英語教育が導入される等、グローバル人材の育成が大きな目標になりました。この25年間、豊橋市国際交流協会は、交流の実績を上げ多方面の要望に応じてまいりました。

ところが25年が経過して、このグローバリゼーションの流れに竿をさす様に日本の回りでは国と国の関係は厳しさを増しています。尖閣諸島問題では中国との間がぎくしゃくし、竹島問題では韓国との間がぎくしゃくし、北方領土問題ではロシアとの間がぎくしゃくしています。日本の周りだけでなく、領土や領海を巡りベトナムが中国と、ウクライナがロシアと鋭く対立し一触即発の状況となっています。グローバリゼーションの流れに逆行しかねないゆゆしき問題が、次から次に発生しております。

豊橋市国際交流協会は今まで国際交流を広げ深める努力を重ねて来ました。長い時間を掛けて諸外国の一人一人の人と、友好関係を築き上げて来ました。今後必要な事は、国と国の関係が厳しくなってもこの関係をしっかり維持し、現在まで積み重ねた国際交流を、この潮流に押し流される事なく更に発展させ広げ深める事と思います。

大変厳しい時代の到来ですが今後とも微力ながら世界平和の実現に向けて、国際交流の活性化のために頑張ります。皆様のご理解とご支援の程よろしく願いいたします。